

広島市で6日に開かれた平和記念式典に、本県の被爆者遺族代表として上越市柿崎区の満田恵美子さん(76)が参列した。昨年10月に亡くなった「県原爆被害者の会」元会長で夫の誠二さん(享年83)の形見の文鎮を握り、「お父さん(誠二さん)の平和への思いを受け継いでいきます」と慰霊碑に誓った。

誠二さんは中1の時、被爆した。自身は広島市中心部の

夫の遺志 受け継ぎ祈り

実家から離れたおぼの家に疎開していたが、父や姉は犠牲になった。多くの同級生も失った。文鎮は生家の焼け跡に残っていた唯一、形あるもので、大切にしていたという。

広島大を卒業後、1957年に吉川高校醸造科の教員として本県に赴任し、恵美子さんと結婚した。

本県代表・満田さん 上越



平和記念式典後、献花を待つ満田恵美子さん(右)と長女の宮崎理枝子さん。理枝子さんが持つのが誠二さんの形見の文鎮=6日、広島市中区

長女が生まれた63年ごろ、「家族や友達の霊をなぐさめたい。無念さを伝えていきたいと文鎮を見せて話してくれた。私も夫を支えていくことを決めました」と恵美子さんは振り返る。

核兵器廃絶を願う誠二さんは、「核兵器のない世界」を訴え「プラハ演説」を行った

平和式典に 形見の文鎮

オバマ米大統領に期待を寄せていた。恵美子さんは5月の広島訪問を誠二さんの遺影とともにテレビで見守った。

オバマ大統領が、折り鶴を用意していたことに感激した。誠二さんは「折り鶴は平和の象徴だ」と話し、自宅でもよく折っていたからだ。平和記念資料館でオバマ大統領の折り鶴を見た。「とっつてもきれいだっただ。お父さんと一緒に見たかった」と目を潤ませた。